

Ⅱ. メディア・ジャーナリズムプログラム

1. 設置の趣旨と教育の目的

本プログラムは、長谷川如是閑や杉村楚人冠といった日本の歴史に残る著名なジャーナリストを輩出した中央大学の伝統を継承しつつ、インターネット時代に対応し活躍できる記者、ドキュメンタリーや映画のディレクター・プロデューサー、アナウンサー・キャスター、広告業界のプランナーやクリエイティブ・ディレクター、出版業界の編集者などのほか、著作権や表現の自由などメディア関連法務に詳しい人材を育成することを目的としています。

中央大学は、1909年に新聞学科を設置しました。日本では、最も早くメディア・ジャーナリズム研究と人材育成に取り組んだ大学のうちの1つです。これまで、東大、早慶とともに、メディア業界に多数の人材を輩出してきました。しかし、1978年の多摩全面移転以降、大学における育成プログラムの消滅、OBOGとの関係希薄化によって、メディア業界へ進む学生数は激減してしまいました。

このため、2003年に「FLP ジャーナリズムプログラム」を開設し、実践的な育成プログラムを展開してきました。その結果、本プログラムを受講した後、朝日・毎日・読売などの新聞社、共同・時事などの通信社、NHK・民放などの放送局、電通・博報堂などの広告代理店、講談社・文藝春秋などの出版社に就職した学生数は150人以上に及んでおり、本プログラムは確実に実績を出し続けています。

2. 2025年度演習科目担当者および履修者数

連番	氏名	所属学部	FLP 演習A	FLP 演習B	FLP 演習C	総計	実施形態
1	岩隈 道洋	国際情報	4	2	-	6	合併(A・B)
2	松野 良一	国際情報	5	7	2	14	単独(A・B・C)
3	石山 智恵	国際情報	6	9	5	20	単独(A・B・C)
4	杉浦 信之	全学連携 教育機構	8	7	8	23	単独(A)合併(B・C)
5	山崎 恆成	全学連携 教育機構	11	13	9	33	単独(A)合併(B・C)
合 計			34	38	24	96	

3. プログラムスケジュール

- 5月 第1回部門授業担当者委員会
- 7月 ガイダンス（一年次生向け）
第2回部門授業担当者委員会
- 11月 2026年度募集に伴う選考試験
- 12月 第3回部門授業担当者委員会
学内活動（期末成果報告会）
- 3月 FLP 修了発表
FLP 修了証書授与

4. プログラムの活動

期末成果報告会

実施日： 2025年12月13日(土)13:20～

実施場所： 中央大学 市ヶ谷田町キャンパス 401 教室（ハイフレックス形式）

実施内容： 各ゼミによる年度活動報告

5. これまでの履修生の主な就職・進学先実績

日本放送協会（NHK）、日本テレビ放送網、テレビ朝日、TBS テレビ、テレビ東京、フジテレビジョン、北海道文化放送、秋田テレビ、福島中央テレビ、信越放送、中部日本放送、中京テレビ放送、東海テレビ放送、富山テレビ放送、北陸放送、北陸朝日放送、MBS 毎日放送、高知放送、TBS スパークル、日テレアックスオン、テレビ東京制作、共同テレビジョン、日本テレビ音楽、エフエム愛知、WOWOW、東北新社、IMAGICA、JCOM、沖縄ケーブルネットワーク、朝日新聞社、読売新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、共同通信社、時事通信社、北海道新聞社、中日新聞社、中国新聞社、岐阜新聞社、京都新聞社、新潟日報社、小学館、講談社、集英社、文藝春秋、光文社、白泉社、ダイヤモンド社、有斐閣、NHK 出版、ベネッセコーポレーション、ぴあ、リクルート、電通、博報堂、ADK、読売広告社、東急エージェンシー、メトロエージェンシー、京王エージェンシー、電通テック、博報堂プロダクツ、PRAP JAPAN、サイバーエージェント、電通デジタル、ホリプロ、マイナビ、NTT 東日本、NTT データ、NTT ドコモ、KDDI、ヤフー、任天堂、ニフティ、電通総研、三菱商事、三菱自動車、日本銀行、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、三菱東京 UFJ 銀行、日本政策金融公庫、東京海上日動火災保険、損害保険ジャパン日本興亜、ソニー損害保険、明治安田生命保険、野村総合研究所、アクセンチュア、デロイトトーマツコンサルティング、野村証券、富士通、リコー、キヤノン（Canon）、凸版印刷（TOPPAN）、サントリー、アサヒビール、日本航空（JAL）、全日本空輸（ANA）、東日本旅客鉄道（JR 東日本）、京王電鉄、小田急電鉄、オリエンタルランド、日本 IBM、サイボウズ、地方公務員（県庁・市役所など）、一橋大学大学院、早稲田大学大学院、中央大学大学院（文学研究科、総合政策研究科）など

6. 演習教育活動

(1) 岩隈 道洋 (国際情報学部・教授)

FLP 演習 A・B

<テーマ>

メディア・ジャーナリズム・ICT の法と倫理

<授業の概要・活動内容>

本 FLP 演習は昨年度 (2024 年度) に 2 名体制で初開講したもので、本年度 (2025 年度) は新たに 2 年生メンバー 4 名が加わり、2 期目のスタートとなった。

本年度の FLP 演習 B は、ともに法学を専攻する法学部生 1 名と国際情報学部生 1 名で構成され、昨年度に引き続き、日本の現行放送法 (昭和 25 年法律第 132 号) の理解を各人の関心に応じて掘り下げてもらうべく、曾我部ほか『情報法概説 (第 3 版)』弘文堂 (2025) や鈴木・山田『放送制度概説』商事法務 (2017) を基本書として日本の放送制度に関する体系的理解を進めてきた。

その延長線上に憲法上の表現の自由との関連性や、NHK の受信料制度に関する問題、広告収入に依存する民放の業務や意思決定の問題、政府のメディア政策との緊張関係の問題等についての討論を行い、また、放送メディアとインターネットメディアとの関係性の変化に関する文献調査や、昨年度訪問した韓国の放送法との比較法的検討を地道に継続しながら、来年度 (最終年度) のゼミ論文に向けたテーマの絞り込みを行っている。

FLP 演習 A は、いずれも法学を普段は専攻していない文学部生 2 名 (社会情報学専攻・東洋史学専攻)・総合政策学部生 2 名 (いずれも政策科学科) で構成されており、本年度前期中は、主に FLP 演習 B の先輩をチューターとしつつ、民法および著作権法の基礎を文化庁の作成した『著作権テキスト』を中心に学習し、メディア・ジャーナリズム分野における法的思考法や基本概念に慣れてもらうための学習を行った。

後期は、上記メンバーのうち 3 名は「AI 生成物と著作権法の関係」をテーマとし、1 名は FLP 演習 B のメンバーと合流して「表現の自由と放送法の関係」を研究することとなった。

「AI 生成物と著作権法の関係」チームは、著作権法の基本的学習を継続しつつ、AI 生成物に関する訴訟が既に多く提起されている米国や中国の事例をモデルケース (音楽・映像・キャラクター) とし、それらの国での対応の現状や、同様の問題が日本で発生した場合を想定して日本著作権法でいかなる対応が可能となるかについての検討を行った。「表現の自由と放送法の関係」チームは、上記 FLP 演習 B の放送法を巡る政策状況や研究状況の報告に参加しながら、当人が興味を持っている憲法学の知見を、放送法の制度理解や解釈にどう応用するかについての検討を行った。

<本年度の小括>

本年度は担当教員が前期末～後期初めにかけて疾病による入院と加療を余儀なくされ、昨年行った韓国実地調査と同様の、海外の関連制度や状況調査のための調査 (特に FLP 演習 A 生は、台湾を対象とすることを考えていた) を実施することができなくなり、主に各人の文献調査とそれに基づく報告と討論を繰り返す、割と「地味」な演習活動に終始した。

しかし、偶々法学にもともと明るい B 生 (3 年生) と、法学を体系的に学習したことが無い A 生 (2 年生) の組み合わせが幸いし、日ごろ法学に触れることのない A 生に対し、B 生が法学の基礎知識や言葉遣い、法的なものの見方 (リーガル・マインド) の手ほどきを行うことができ、後期のテーマ研究にスムーズに入っていくことができたことは、ありがたいことであった。

次年度 (2026 年度) は新たに 3 名の新 A 生を迎え、また本演習の 1 期生となる現 B 生 (新 C 生) の卒業研究をまとめることになる。FLP らしい各自の異なる専門のシナジー効果の研究への反映と、地味な文献調査に裏打ちされたアクティブな研修調査の実現を目標としたい。

(2) 松野 良一 (国際情報学部・教授)

FLP演習A・B・C

<テーマ>

ドキュメンタリー制作及びノンフィクション執筆の実践

<授業の概要>

- ①ドキュメンタリー制作
- ②国内外取材プロジェクトの遂行とアウトプット
- ③『中央評論』のグラビア、特集、などへの執筆、出版活動

<活動内容>

多様な能力開発及びジャーナリストマインドの育成のために、実践的な活動を行なった。主として、①実際にネット配信及びケーブルテレビで放送するための番組制作、②各種活字メディアへの執筆活動、を2本柱とした。

1. 番組制作については、「多摩探検隊」及び「にっぽん列島探検隊」用のドキュメンタリーを制作した。視聴可能世帯数は、「にっぽん列島探検隊」はイッツコム系列の約100万世帯である。「多摩探検隊」は2019年度からケーブルテレビ放送ではなく、ネット配信としている。
2. 「特攻と中央大学—記憶を後世に—」プロジェクト
太平洋戦争において特攻戦死した中央大学学徒の物語を調査によって可能な限り掘り起こし、書籍と映像作品を刊行することで中央大学の後輩たちに記憶をつないでいくことを目的としたプロジェクト。2021年度に開始し、2026年2月現在まで継続している。活動の詳細は、以下の通り。
 - (1) 特攻戦死した中央大学学徒について防衛研究所、国立国会図書館などに保存されている戦闘詳報等の記録を総合的に調査（陸海軍別の正確な戦死者数の割り出しや、個人に関わる記録の保存等）。
 - (2) 全国の記念館、資料館や史跡などを調査し、特攻戦死した中央大学関係者の遺影、遺書、遺品等がどこにあり、どのように保存・展示されているかを明らかにする。
 - (3) 上記の活動によって収集した公式記録、遺族の証言、保存文書などから、可能な限り学徒の物語を掘り起こし、活字、映像メディア媒体を通じて歴史を伝承する。
3. 今年度は10名の遺族関係者へのインタビュー調査活動をまとめた『中央評論』（2025年春号、331号）の特集「特攻で散った中大生たち—みんな、夢があった…」」が出版された。加えて4名のルポルタージュを執筆し、来年度のプロジェクト書籍化に向けて準備を進めている。
執筆活動については、学内のメディアである『中央評論』にて今年度はルポルタージュ4本を投稿し、掲載された。
4. KKB 鹿児島放送主催「戦後80年企画ワークショップ 若者とメディアは戦争をどう伝えるか」（8月17日）にFLP松野ゼミ生が参加。若者の視点で「戦争をどう伝えるか」書いた原稿が、放送文化基金のサイトに掲載された。

活動の詳細は、以下の通り。

1. 番組「多摩探検隊」制作

YouTube 「多摩探検隊」チャンネルにて配信中

配信月	企画	D	番 P	進行状況
25 年 4 月	「靖国」に行かなかった特攻隊員	杉村	杉村・山崎 小西	配信済み
6 月	青梅、B29、吉川英治 (戦争体験講話会の記録)	金原	金原	配信済み
6 月	変わる時代、変わらぬ心 —東京・両国「和菓子屋とし田」 (100 年超の伝統)	小林	小林	配信済み
11 月	米兵供養碑の謎を追う	藤川	伊藤・藤川 杉村・山崎	配信済み

2. 番組「にっぽん列島探検隊」制作

CATV「イツコム」にて放送中

放送月	番組回	使用 VTR	番 P
25 年 4 月	第 72 回	最後の戦犯	宮崎
5 月	〃	〃	〃
6 月	第 73 回	「靖国」に行かなかった特攻隊員	宮崎
7 月	〃	〃	〃
8 月	第 74 回	変わる時代、変わらぬ心 —東京・両国「和菓子屋とし田」(100 年超の伝統)	宮崎
9 月	〃	〃	〃
10 月	第 75 回	青梅、B29、吉川英治 (戦争体験講話会の記録)	宮崎
11 月	〃	〃	〃
12 月	第 76 回	米兵供養碑の謎を追う	宮崎
26 年 1 月	〃	〃	〃
2 月	第 77 回	A Video Letter —姉妹の宝物—	宮崎
3 月	〃	〃	〃

3. 歴史発掘・記録プロジェクト

活動日程	場所	内容	アウトプット
2021 年 5 月～	国立国会図書館 防衛省防衛研究所 戦史研究センター 鹿児島県知覧町 他	特攻戦死した中央大学 学徒に関わる執筆、映 像作品の制作	・特攻戦没者名簿の作成 ・遺品収集状況の作成 ・制作した作品を刊行予定

4. 執筆プロジェクト

中央評論グラビアにゼミ生がルポルタージュを執筆

掲載時期	執筆者	内容
2025 年春号 (331 号)	藤井梨緒	「わだつみのこえ記念館」訪問記 —三人の中大学徒—
2025 年夏号 (332 号)	中根杏	ニューギニア戦線の名もなき遺骨たち
2025 年秋号 (333 号)	瀬川藍生	「日本航空 123 便墜落事故の現場」を歩く
2026 年冬号 (334 号)	岡島寿弥	サイパン&テニアン島が教えてくれたこと

5. コンテスト結果について

作品	製作者	時間	内容	コンテスト名	結果
最後の戦犯 —残された 手記—	福本日和	24 分	長崎原爆の翌日 1945 年 8 月 10 日、 日本陸軍・西部軍は、福岡市南部に ある油山の山中で米兵捕虜 8 人を処 刑した。上官の命令で処刑を実行し た若い見習士官の 1 人が左田野修。 戦犯として身を迫られることになっ た彼は、上官から「いざというとき は自決せよ」と拳銃を渡され、逃亡 を命じられる。修氏は捕虜殺害、逃 亡、そして逮捕から判決に至るまで 詳細に手記を残していた。そこに綴 られていたのは捕虜殺害に対する罪 悪感、葛藤、そして恐怖だった。残 された手記をもとに戦争という運命 に翻弄された 1 人の戦犯の実像に迫 る。	地方の時代 映像祭 東京ドキュメ ンタリー 映画祭	二 次 審 査 通 過 及 び 映 画 祭 に て 上 映
「靖国」に 行かなかった 特攻隊員	杉村千依	22 分	東京都・調布飛行場には戦時中、陸 軍飛行隊(第 244 戦隊)が配備されて いた。戦況の悪化とともに、調布飛 行場は本土防衛だけでなく、九州の 特攻基地への中継地となった。慶応 大学から学徒出陣した上原良司さん は、この調布飛行場で戦闘機「飛 燕」を受領し鹿児島・知覧へ進出。 1945 年 5 月 11 日に沖縄方面に出撃 し戦死した。彼は特攻の約 1 か月前 に里帰りした際、妹さんに「靖国神 社には行かないからね」と言い残し ている。また出撃前夜には、遺書 「所感」を書き残し、自分は自由主 義者であると述べている。にもかか わらず、最後は勇ましく特攻出撃し た。彼はなぜ、どんな思いで出撃し ていったのか。その謎を解くため、 私たちは取材の旅に出た。	地方の時代 映像祭	一 次 審 査 通 過

6. 松野ゼミの活動について取り上げたテレビメディア

	掲載紙・番組	取り上げられた活動
5月29日	KKB 鹿児島放送 News+おやっと！	鹿児島県十島村・中之島に不時着した 九七式戦闘機に関する取材
6月26日	KKB 鹿児島放送 News+おやっと！	「梓特別攻撃隊」に関する鹿児島取材
8月12日	KKB 鹿児島放送 News+おやっと！	鹿児島県十島村・中之島に不時着した 九七式戦闘機に関する取材、続編
10月1日	KKB 鹿児島放送 (放送文化基金助成イベント)	『特攻と中央大学』プロジェクトに 関する取材

■5月29日 「KKB 鹿児島放送」番組放送後、YouTube で公開

https://youtu.be/B_FZBTj_Oho?si=Q6vPtJ0FF1UAGweD



■6月26日 「KKB 鹿児島放送」番組放送後、YouTube で公開

<https://youtu.be/mmg-geMLvv0?si=RfbxSd6nI2s1R21M>



■8月12日 「KKB 鹿児島放送」番組放送後、YouTube で公開

<https://youtu.be/kHyDFtSdMm?si=zIKo8vnIW0zPyTAN>

■10月1日 「KKB 鹿児島放送」番組放送後、YouTube で公開

https://youtu.be/ZYHSE_83_EI?si=wLju10ALUb4d30wQ

7. 松野ゼミの活動について取り上げた新聞記事について

- 8月11日 朝日新聞（デジタル版）で、松野ゼミの活動である「特攻と中央大学」プロジェクトが紹介された。

https://digital.asahi.com/articles/DA3S16281545.html?iref=pc_ss_date_article

- 8月14日 同記事が夕刊六面に掲載

（戦後80年）特攻隊になった「先輩」、私が伝える 中央大生取材、学内誌に記事

2025年8月14日 16時30分 有料記事



太平洋戦争で特攻により戦死した中央大の学生らの足跡を、現代の中央大生が取材した。学生らは戦死した先輩の遺族たちにも話を聞き、夢もあった大学生の人生が奪われた悲慘さを実感した。特集記事は学内誌に掲載された。

特集記事に取り組んだのは、中央大の松野良一教授（ジャーナリズム論）のゼミ。20

特攻で戦死した石田力雄さんの妹・黒部栄子さん（左）を取材する小西結音さん＝中央大・松野良一ゼミ提供

- 10月14日

放送文化基金サイトに、ゼミ生のレポートが掲載される。

“自分の物語”として戦争を見つめる【中央大学3年 藤井梨緒】

<https://www.hbf.or.jp/magazine/9660/>

放送文化基金

私たちについて 経緯情報 お知らせ よくあるご質問 その他の活動 お問い合わせ
放送文化基金賞について 助成を受ける 制作者フォーラムについて

“他人事”を“自分事”に変えるための仕掛け

戦後80年、私たち若者世代はどのように戦争の記憶を受けとめ、次の世代へと引き継いでいくべきなのか。戦争を知らない世代として、これから果たしていく役割について考えた。

今回の戦後80年企画ワークショップ「若者とメディアは戦争をどう伝えるか」で、印象的だった言葉がある。一つは、「創団いぶき」で脚本・演出を担当された朝隈克博さんの「演じないでくれ、感じ取ってその人のように寄り添って生きてくれ」だ。朝隈さんは演技指導において、現代の価値観を当てはめるのではなく、役者が当時の人々の感情や立場に寄り添って演じることを大切にされていた。

私自身も知らず知らずのうちに現代の価値観を、当時の特攻隊員の思いに重ねてしまっていたのではないかと気づかされ、ハッとした。また中央大学の学生役を創の舞台に登場させることで、観客が「現代の若者として」戦争を捉える視点が提示されていた。現在ゼミで取り組んでいる「特攻と中央大学プロジェクト」も、後輩が先輩を訪ねる仕掛けを通じて「他人事」を「自分事」に変えていく工夫がある。戦争を自分が生活している社会に引き寄せて、考えられる仕掛けの大切さを改めて感じた。



ワークショップで発言する藤井さん

“伝える側”としての責任と工夫

もう一つは、NHKエンタープライゼス シニア・プロデューサー大島隆之さんの「戦争を伝えていく上で、僕ら制作者が、亡くなられた方の命を、主観主張を伝えるための手段として使っていないか、自覚することが大事である」という言葉だ。戦争を伝える難しさは身にしみて感じている。制作者として戦争を伝えていく際には、自分自身の主観主張や解釈を発信する手段として、亡くなられた方の命や記憶を援けてしまっていないか、常に自覚する姿勢を忘れずに臨みたい。

■12月14日 中日新聞（朝刊五項、デジタル版）に、ゼミ生執筆のルポルタージュ「特攻隊員たちが暮らした『攻空寮』の記憶と残された短冊」（中央評論 330 号掲載）の紹介記事が掲載された

<https://www.chunichi.co.jp/article/1178997>

「特攻」のメカニズム (15) 短冊が広げる輪<4>「継承」 ずっと「戦後」
続けるために

2025年12月14日 05時05分 (12月14日 05時05分更新)

2024年春、特攻隊員らの書の短冊を長年保管してきた三重県伊勢市の岡出とよ子さん（85）のスマートフォンに、見慣れない番号の着信があった。電話に出ると、孫娘と同年代の若い女性の声がした。

「隊員の話詳しく聞かせていただけないでしょうか」



投稿した「中央評論」を手に、岡出とよ子さんの取材を振り返る百武凜花さん＝東京都新宿区の中央大市ヶ谷田町キャンパスで

声の主は中央大総合政策学部現3年の百武凜花（りな）さん（21）＝埼玉県朝霞市。2年になる4月からジャーナリズムを学ばせゼミを履修するにあたり、特攻の取材をしたいと考えていた。

百武さんは、イラク戦争が始まった翌年の04年生まれ。主に戦後生まれの祖父母から戦争の話を聞いた記憶はない。戦争との接点といえば、中学時代の修学旅行で沖縄県のカマ（自然洞窟）やひめゆり平...

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：B

実施日：2025年5月2日(金)～5月3日(土)

実施都市：鹿児島県南九州市

実施場所：知覧特攻平和会館

実施内容：第 71 回知覧特攻基地戦没者慰霊祭への参加及び芝崎茂少尉の甥である芝崎康さんへの取材及び撮影

成果：ドキュメンタリー制作中

対象演習：B

実施日：2025年5月9日(金)～5月12日(月)

実施都市：鹿児島県十島村中之島

実施場所：十島村歴史民俗資料館や牧場跡地など島内各地

実施内容：中之島に不時着した九七式戦闘機の残骸調査及び聞き込み調査

成果：ルポルタージュの執筆、ドキュメンタリー制作中

対象演習：B

実施日：2025年5月20日(火)～5月26日(月)

実施都市：北マリアナ諸島 サイパン島・テニアン島

実施場所：島内各地

実施内容：国際旅行社主催「南洋群島・慰霊と交流の旅」への同行取材及び現地調査
成 果：ルポルタージュの執筆、ドキュメンタリー制作中

対象演習：B

実 施 日：2025 年 6 月 3 日(火)～6 月 5 日(木)

実施都市：北海道函館市

実施場所：櫻井健治様のご自宅

実施内容：福田幸悦大尉の甥である櫻井健治様へのインタビュー及びお墓の撮影

成 果：梓特別攻撃隊ドキュメンタリーを制作中

対象演習：B

実 施 日：2025 年 6 月 25 日(水)～6 月 27 日(金)

実施都市：鹿児島県奄美市

実施場所：宮山紘一様のご自宅

実施内容：中之島に不時着した九七式戦闘機について、戦時中の島民である宮山様へインタビュー

成 果：ルポルタージュの執筆、ドキュメンタリー制作中

対象演習：C

実 施 日：2025 年 7 月 6 日(日)～7 月 7 日(月)

実施都市：石川県羽咋郡、金沢市

実施内容：石川県出身の特攻隊員の遺族探し

成 果：2 名の遺族を発見。出版する書籍に遺影を掲載する許可を得た。

対象演習：B

実 施 日：2025 年 8 月 4 日(月)

実施都市：東京都町田市

実施場所：町田駅

実施内容：不時着した九七式戦闘機の搭乗員・川村巖美様の娘である新居洋子様へ、インタビュー

成 果：ルポルタージュの執筆、ドキュメンタリー制作中

対象演習：B

実 施 日：2025 年 8 月 17 日(日)

実施都市：鹿児島県鹿児島市

実施場所：鹿児島市山下町・カクイックス交流センター（かごしま県民交流センター）

実施内容：①KKB 鹿児島放送主催「戦後 80 年企画ワークショップ 若者とメディアは戦争をどう伝えるか」（放送文化基金助成イベント）への参加

②放送文化基金に記事を寄稿

成 果：①②放送文化基金のサイト「HBF MAGAZINE」にて、ワークショップに参加した感想記事が掲載。タイトルは「“自分の物語”として戦争を見つめる」

対象演習：A

実 施 日：2025 年 9 月 8 日(月)

実施都市：埼玉県川口市

実施場所：工藤双二様のご遺族宅

実施内容：特攻戦死した中央大学 OB に関する資料収集及び記録

成 果：ルポルタージュの執筆

対象演習：A・B

実施日：2025年9月19日(金)～2025年9月20日(土)

実施都市：宮城県名取市

実施場所：及川眞輔様のご遺族宅

実施内容：特攻戦死した中央大学OBに関する資料収集及び記録

成果：ルポルタージュの執筆、ドキュメンタリーを制作予定

対象演習：B

実施日：2025年10月18日(土)

実施都市：千葉県八千代市

実施場所：岡田浩明様のご自宅

実施内容：岡田義人少尉の甥である岡田浩明様へのインタビュー及び撮影

成果：ルポルタージュの執筆

対象演習：B

実施日：2025年10月30日(木)

実施都市：埼玉県桶川市

実施場所：桶川飛行学校平和祈念館

実施内容：芝崎茂少尉が最後に家族と過ごした地である桶川飛行場での訓練・生活の様子の撮影

成果：ドキュメンタリーを制作予定

対象演習：A・B

実施日：2025年12月13日(土)

実施都市：和歌山県海南市

実施場所：谷節夫様のご遺族宅

実施内容：特攻戦死した中央大学OBに関する資料収集及び記録

成果：ルポルタージュの執筆

対象演習：A・B

実施日：2026年2月25日(水)

実施都市：鹿児島県南九州市

実施場所：知覧特攻平和会館

実施内容：特攻戦死した中央大学OBに関する資料収集及び記録

成果：ルポルタージュの執筆とドキュメンタリーの制作を予定

(3) 石山 智恵 (国際情報学部・兼任講師)

F L P 演習 A・B・C

<テーマ>

“パブリックスピーキング”のスキルと社会を切り取る「視点」を身につける

<授業の概要>

本演習の最大の目的は、「パブリックスピーキング」のスキルを身につけ、大学生として、また社会人として、その技能を生かすことである。パブリックスピーキングにおいては、親しい仲間内の会話とは異なり、不特定多数の人に、わかりやすく、的確に情報を届けることが重要となる。“伝え手”は、「正しく、美しい日本語」の使い手であることが求められるほか、情報を、道筋を立てて、過不足なく伝える力を身につけることが大切となる。腹式呼吸を使った発声法を学び、実際に放送で用いられるニュース原稿などを使った「読みの練習」のほか、制限時間を定めた自己 PR、テーマを決めたフリートークの発表などを行い、「伝える・響く」プレゼンテーションの力を養成する。

また、番組制作を通して、“伝え手”に不可欠な社会の現象や課題を独自に切り取る「視点」の獲得も目指す。独自の視点で「ネタ」を探し、取材リサーチを行い、テレビリポートを実際に制作、発表までを行う。視聴者、リスナーに、深い気づきと考える材料を提供できる情報発信者となることを目指す。

そのほか、社会の第一線で活躍するゲストスピーカーを招聘し、未知の分野への理解を深める。

<活動内容>

履修生は、2 年生 5 名、3 年生 9 名、4 年生 5 名の計 19 名。前期は、発声や発音、アクセント、口調など、アナウンスの基礎を、テキストを使用した座学で学習した他、実際のニュース原稿を用いて、実践的なアナウンス技術の習得を行った。誤読、誤使用の多い日本語表現についても学んだ。

自己表現力と、「わかりやすく伝える」技術を習得する実践では、300 字程度の自己 PR と、身近な話題を聞き手に魅力的に伝えるフリートークの執筆と発表に取り組んだ。そのほか、より豊かな表現力を磨くため、落語に挑戦したり、アナウンサー採用面接で実際に出題された課題に取り組んだりし、多角的なアプローチで、表現力強化をはかった。

夏以降は、第 42 回 NHK 全国大学放送コンテスト・アナウンス部門に、昨年度に引き続き、ゼミとしてエントリーした。参加団体：128 団体、作品数：全 983 作品。

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| ・アナウンス部門：233 作品 | ・朗読部門：432 作品 | ・音声 CM 部門：76 作品 |
| ・ラジオ番組部門：90 作品 | ・映像 CM 部門：94 作品 | ・映像番組部門：58 作品 |



新たに参加する大学が増える中、今年は残念ながら、本選に残ることは出来なかったが、それぞれテーマを見つけ、取材し、1 分半のニュース原稿にまとめ、アナウンスするという、実際の放送現場で行われる一連のプロセスを実践的に経験することができた。来年度は、さらに練習を積んで、是非本選出場を目指したい。

例年同様、夏休みを活用し、9 月 11 日～13 日の日程で、新潟県での学外演習を行った。取材テーマは、多くの提案の中から賛同が最も多かった「令和のコメ問題」。連日ニュース番組でも報道され、国民的関心を集めるホットな問題の取材にチャレンジした。19 人のゼミ生が、4 つの班に分かれて、それぞれテーマを設定。事前のリサーチ・取材、構成表作成、現地でのロケ取材、編集、ナレーション・テロップ入れ、スタジオ収録など、一連の番組制作を実践的に学んだ。今年度は、新たに、江戸川大学のサテライトスタジオにて、本格的な番組収録

オペレーション演習も行った。放送局さんからの設備を活用して、これまでも増して本格的なニュース番組を完成させることができた。

<実態調査・見学調査・講演会>

9月11日～9月13日の日程で、新潟県・新潟市・長岡市にて、学外演習を実施した。詳細は、以下の通り。

対象演習：A・B・C

実施日：2025年9月11日(木)～9月13日(土)

実施都市：新潟県新潟市・長岡市

実施場所：JA新潟中央会・米農さくらい・アシスト21・他

実施内容：2024年夏ごろから、コメが品薄になり価格が高騰する、いわゆる「令和のコメ騒動」が起きた。スーパーの棚からコメが消える事態にまで至り、国民的関心が高まる中、複雑で理解が困難なこの問題に、真正面から向き合うニュースリポート制作に取り組んだ。19人が4つの班に分かれ、それぞれのテーマで現場での取材に精力的に臨んだ。

テーマ① “令和のコメ問題” 原因は？

農林水産省・生産者・JA・卸業者・流通業者・小売りと、コメが食卓に上るまでには、複数のステークホルダーが介在している。その中のどの段階で、どのような問題が起き、事態が深刻化したのか。第1班では、JA新潟中央会のほか、新潟県庁、大手卸業者など、複数の関係者にインタビューを行い、真相の解明に迫った。インタビューの羅列を避け、視聴者にわかりやすく解説するため、図やグラフ、コメントに工夫を凝らし、ロジカルに問題を整理した。

テーマ② 農家の現状

第2班は、コメ作りを担う生産者の実情に迫った。取材したのは、代々専業でコメを作る農家の若手経営者たち。経営を存続し次世代に繋いでいくためには、コメ価格は一定の水準が不可欠という、苦しい胸の内を明かした。番組では、価格変動に左右されない独自の直販ルート開拓の取り組みも紹介した。

テーマ③ コメ離れを食い止める！ 米粉拡大の取り組み

日本人の年間コメ消費量は、1962年をピークに減少し続け、生産調整が行われてきた歴史がある。日本にとって自給作物のコメ生産を維持・拡大することは食糧安全保障上も重要であるとして、新潟県が主導し、小麦粉の10%以上を米粉に置き換える取り組みが進められている。第3班は、この「R10プロジェクト」に参加するシフォンケーキ店を取材。新潟の人たちのコメに寄せる思いを伝えた。また、NY留学中のゼミ生が、アメリカのコメ事情を取材し、現地からレポートした。

テーマ④ スマート農業への期待と課題

農家の減少と高齢化が加速する中、期待されているスマート農業。ドローンによる農薬散布やデジタルを駆使した圃場管理など、最新鋭の技術を導入する農家を、第4班が取材した。作業の効率化につながる一方、初期投資やランニングコスト負担に悩む農家、「データをいかに生かすかがカギ」と、農家へのシステム導入支援を展開する企業の動きをレポートした。

成果：現在進行形で状況が変化し、新たな情報が報道される「時事問題」に、半年以上かけて向き合うことで、ニュース報道に欠かせない、社会の変化を敏感に捉える視点と洞察力、リサーチ力のほか、状況を論理的かつ分かりやすく整理す

る力を養うことができた。アドビのプレミアプロを使用した映像編集は3年目を迎え、画像加工やテロップ入れなど、これまで以上に完成度の高い番組に仕上げることもできた。

対象演習：A・B・C

実施日：2025年10月18日(土)

講演者：多胡 実信氏（プロ編集マン）

演題：「プレミアプロでの編集を学ぶ」

実施施設：中央大学 市ヶ谷田町キャンパス 502 ワークステーション

実施内容：NHK スペシャルなど数々の番組編集を手掛けるプロ編集マンを迎え、プレミアプロを使用した編集スキルの指導を受けた。

成果：実際のロケ素材を使用しながら、また、事前に作成した構成表に沿って、必要な編集スキルの指導を受けることができた。これまで以上に高度なスキルにも挑戦することができた。



今年度初の取り組みとして、千葉県流山市・江戸川大学のサテライトスタジオにて、スタジオプレゼンテーション部分の収録を行った。詳細は、以下の通り。

対象演習：A・B・C

実施日：2025年12月7日(日)

実施都市：千葉県流山市

実施場所：江戸川大学サテライトスタジオ

実施内容：メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科を有する江戸川大学には、放送局さながらの設備・機材を備えたサテライトスタジオがある。3台のカメラを、副調整室でスイッチングしながら、スタジオ疑似生放送を収録することができる。元NHK記者で、江戸川大学中島健夫教授の協力を仰ぎ、新潟で取材し制作した4本のニュースリポートをスタジオでつなぎ、1本の報道番組に仕上げるためのスタジオ収録を実施した。

成 果：3台のカメラをスイッチングすることで、スタジオキャスターのカメラ割りのほか、スタジオ物見せなどの演出も取り入れることができた。
石山ゼミは、アナウンサー志望の学生が複数いるため、本格的なスタジオ収録が実現し、実践的な学びに高い満足度を得ることができた。



(4) 杉浦 信之 (全学連携教育機構・客員教授)

F L P 演習 A・B・C

<テーマ>

ジャーナリズムの担い手を志す学生を中心に、メディアの現状や課題を実践的に学ぶとともに、メディアの柱である情報発信の基礎としての文章作成力を養成することを目指す。

【ゼミ A】

新聞等の既存メディアからネットメディアまでマスメディアの全体状況を理解すると同時に、事実を正確に伝える文章力を身につける。

【ゼミ B】

ゼミ A で学んだメディア状況を踏まえ、各メディアの特性とジャーナリズムの課題を考える。対立軸のあるテーマで説得力ある文章を作成する。

【ゼミ C】

ゼミ A、B で学んだメディア状況を踏まえ、メディアの公共性・公器性と企業性の両立についての課題を考える。文章作成では様々な課題に適切に対応できる文章を限られた時間内に作成するための実践。

<授業の概要>

【ゼミ A】

①課題作文の講評②日々の様々な報道記事の分析・討論③報道媒体の歴史と現在についての講義の 3 本柱。

【ゼミ B・C】

①課題作文の講評②賛否に幅のある問題に関する時事報道の分析・討論③報道とジャーナリズムの講義の 3 本柱。

<活動内容>

【ゼミ A】

作文は、毎週事前に提示されたテーマに沿った 800 字の作文を作成して提出。作文は添削指導され、ゼミ生によってお題に対する切り口や発想が異なるため、作文を読みあうことで様々な考えに触れ、相互に論評も行い表現力の幅を広げた。

その他、前期はマスメディア論についての講義で基礎知識を身につけ、新聞の始まりからテレビ、ネットへと変わっていく過程を学習。ネット社会のメディア問題についても扱い、フェイクニュースや SNS でのエコーチェンバー現象などについても考察した。2025 年夏の参院選挙に際して、各新聞社が出す情勢調査をまとめ、比較し、情勢調査の問題点などを学んだ。後期は、前期学習を踏まえ、現代の時事報道の分析と報道ジャンルごとの課題を主要テーマとし、学生による調査、発表、討論を行った。具体的には、事件、報道、政治、スポーツ、生活、科学報道などを題材にしたほか、今年度、大きな話題となったフジテレビ中居問題に焦点を当て、メディアの責任や影響力についての分析・考察を行った。

【ゼミ B・C】

作文は、ゼミ A と同様に毎週 800 字の作文を作成・提出し、添削指導。扱うテーマは「オールドメディア」「渡航自粛」「流行語」など時事性の高いニュース、賛否の分かれるテーマが中心で、素材について調べる過程で国内外のニュースや社会情勢への理解も深めた。また、添削では、自分では気づけなかった視点を教員や他のゼミ生からも得られ、文章力の向上だけでなく、物事を多角的に見る力を身につけることができた。

これと併行して、前期は、客観報道の定義や AI との関係、新聞社説の役割と匿名性、テレビ報道における NHK の公共性と独立性について学習し、討議。また、メディアの公平性、選挙報道、アンバーサリー・ジャーナリズムによる憲法改正報道など、現代の報道が抱える課題についても考察した。後期は『ジャーナリズムの道徳的ジレンマ』(畑仲哲雄著、勁草書房)を用いて、ジャーナリズムの現場で起こることがある解決困難な課題について、グループ発

表を実施。具体的には、原発事故取材・オフレコ取材・セクハラなどがテーマで、「自分ならどうするか」という観点から、メディアの特性や問題点に注意を払って考察し、議論を深めた。

<メディア特別講演会> (計5回)

対象演習：A・B・C (ゼミ以外の学生にも公開)

実施日：2025年5月27日、6月17日、7月8日、11月18日、12月2日 (各火曜日)

実施場所：中央大学 多摩キャンパスグローバル館

実施内容：日経、読売、朝日の各新聞社と、共同通信社、NHKの5社による特別講演会を開催し、各社の理念や力を入れている取り組みなどを講演してもらった。取材先との向き合い方や、記事ができるまでの流れなど、経験者の貴重な現場の話があったほか、ゼミ生を含む参加者との活発な質疑応答もあった。

成果：学生にとってメディアの仕事がより身近に感じられるようになったほか、報道の役割や働き方を改めて考えるきっかけとなる機会となった。



<見学調査>

対象演習：A・B・C

実施日：2025年6月22日(日)

実施都市：静岡県静岡市

実施場所：株式会社静岡新聞社・静岡放送株式会社

実施内容：新聞とテレビ局が一つの建物内に入っていることが最大の特徴である静岡新聞・静岡テレビを訪問し、見学および社員と意見交換をした。新聞とテレビがタッグを組み、報道することもあるなど、その特徴を踏まえた質問や会社見学ができた。また、静岡という南海トラフなどの自然災害との関連が深い土地であるため、震災に対するメディアの対応などのお話もあった。

成果：東京にいと目にする事のなかった地方紙の特徴のほか、地方紙と地方テレビ局が一体となったメディアを知る非常に貴重な体験となった。



<見学調査>

対象演習：A・B・C

実施日：2025年6月22日(日)

実施都市：静岡県静岡市

実施場所：株式会社日本経済新聞社 静岡支局

実施内容：ゼミ出身で社会人1年目の先輩の勤務地である「日経新聞静岡支局」を6月22日に現役ゼミ生10数人で訪問し、支局内の見学のほか、先輩がどのような働き方をされているかについても詳しく説明を聞いた。実際に執筆のデスクや当直部屋などにも足を運んで職場の雰囲気を実体験した。

成果：少し前まで一緒に学んでいた先輩であるからこそ聞ける素朴な質問を投げかけ、説明会だけでは感じることはできない、より現実的な「新聞記者の働き方」を学ぶことができた。



<見学調査>

対象演習：A・C

実施日：2025年11月30日(日)

実施都市：神奈川県横浜市

実施場所：日本新聞博物館

実施内容：昨年に続き横浜市にある日本新聞博物館を訪問し、常設展・企画展を見学した。展示されている当時の紙面から、激動する歴史の瞬間を実感しただけでなく、新聞の形式やフォントなどからも、時代とともに新聞が移り変わっていったことが分かり、実際に使用されていた印刷機器や取材の原稿などを間近で見ることができ、技術の進化を体感した。

『戦後80年 戦争を伝える』企画展では、当時の日本の新聞が軍部に対して、いかに協力的だったかということを学習。その中でも、1945年8月11日発売の「毎日新聞」で原子爆弾が使われたことを伏せ、『新型爆弾』と表記をしたり、被害も『極めて僅少』と書かれていたり、8月15日の最後まで徹底抗戦を呼びかける新聞記事となっていたことなどを実際に確認できた。

『能登写真』展では、多数の写真とともに、能登半島地震とその被害について考えることができる展示だった。未だに家に帰ることができない人や、支援を求めている人、余震による二次災害などの危険性を考慮し、ボランティア自粛を求められたという現実、亡くなった人々への思いなど、写真に込められた思いの大きさに触れた。

成果：常設展を通じて新聞の成り立ちや歴史、情報の取り扱いなどを学ぶことで、「過去」の新聞だけでなく、デジタル社会における情報との向き合い方について考えるきっかけにもなった。企画展では様々な人の感情に触れ、記録すること、事実を書くこと、思いを汲み取ること、伝えることの大切さを改めて認識することができた。



(5) 山崎 恆成 (全学連携教育機構・客員教授)

FLP 演習 A

<テーマ>

- ①映像リテラシー
- ②ジャーナリズムとドラマとドキュメンタリー
- ③自分のメッセージ (ドラマ制作)
- ④テレビと SNS

<授業の概要>

- ①このゼミでは、1 つの作品 (ストーリー) の中でどんな映像表現がどのように使われているかを分析することで、映像表現を身につけます。
英語の学習に「英文法」「英作文」「英文読解」とあるとすれば、「英文読解 (精読)」にあたると考えてください。
さらに、映像表現をものにするためには、「多読」も必要です。たくさんの名作 (映画、ドラマ、ドキュメンタリー) を観てもらいます。
- ②優れた映像 (ドラマ) 作品は、ジャーナリスティックな感覚と時代性に富んでいます。
「今の時代」をどうつかむかの感覚を磨きたいと思います。
そのために街頭インタビューやドキュメンタリーの勉強もします。
- ③リテラシーを勉強する中で、自分とは何か、自分のメッセージとは何かがきつと見えてくるはずです。
そうしたら、そのメッセージを映像にしましょう。
ドラマ制作に挑戦します。
- ④SNS の時代ですがテレビは力を持ち続けています。今後のメディアについて考察します。

<活動内容>

今年度の活動は、大きく 2 つ。

ひとつは、夏ドラマ制作に臨むこと、そしてもうひとつは冬ドラマ制作。

ドラマ制作に関しては、冒頭部分に街頭インタビューを用いることで本編に説得力を持たせるという試みを行った。

(その 1) 街頭インタビューについて

前期は「位置情報の共有」、後期は「テスト」をテーマに、大学生世代をメインとして多くの人に街頭インタビューを行った。

結論として、前期のインタビューでは親と位置情報を中高生のうちは共有している人も多い一方で、大学生になると共有していない人が増えることが明らかとなった。しかし、大学生であっても位置情報の共有に抵抗を感じていない人も一定数存在しており興味深い結果となった。

後期のインタビューではテストの際に、教員が教室を離れた経験の有無や、カンニングをしている人を見かけたことがあるかについてインタビューを行い、その際の自身の心情についても尋ねた。その結果、不正行為に対して制止や注意をする人がいる一方で、何も言わず静観する人もいるなど、多様な反応が見られた。

(その 2) 夏ドラマ制作

「位置情報の共有」、そして「大学生世代の親子関係の在り方」をテーマに学生自身が脚本を執筆し、ドラマ制作に挑戦した。初めて学生自らの手で作品づくりに取り組んだ。読み合わせ、リハーサルといった制作過程を経験することで、撮影技術だけでなく、ドラマが完成に至るまでの一連の流れを体系的に学ぶことができた。



(その3) 冬ドラマ制作

『六人の嘘つきな大学生』や『十二人の怒れる男』を視聴し、限られた空間において会話を通して物語を展開させるドラマ制作に挑戦した。A 生は「テスト・カンニング」というテーマを設定し、登場人物を大学生、舞台を教室とすることで、自身の身近な環境に即したリアリティのある会話劇を構築していた。また、今回はカメラ、音響など特定の役割を定めずに撮影を行うことで、通常は経験しない業務にも触れる機会が生まれ、個々の撮影技術向上につながった。



(その4) AI についての特別講義

AI 橋田壽賀子プロジェクトを促進している AI 技術会社 (ABEJA) から担当者を招き、AI の現状と AI 橋田壽賀子プロジェクトの概要を技術的観点から講義をしてもらった。

(その5) ストーリーの作り方の特別講義

ドラマであれ、ドキュメンタリーであれ、メッセージを伝えるためにはストーリーが必要である。ストーリーを教えるプロ、たくさんのプロの脚本家を輩出しているシナリオセンターから特別講師 (新井一樹氏) を招き、ストーリーの作り方の基本を学習した。

(その6) 日本ドラマと韓国ドラマの比較

「連続ドラマ」は、単発のドラマや映画とは異なるストーリーやキャラクター設定によっ

て構成されており、独自のジャンルであることが浮かび上がった。日本のドラマの長所としては、葛藤や心情表現の豊かさが挙げられた。一方で、韓国ドラマにはストーリー展開の巧みさやダイナミックさが備わっていることが明らかになった。

(その7) 音の使い方

音楽ではなく「音」そのものによって恐怖を演出する手法を学んだ。鐘の音やカラスの鳴き声のように、一般的に不吉と結びつけられる音が用いられることは多い。しかし、現実世界の音環境は本来不規則で複雑である。そのため、一定のテンポやリズムで持続的に鳴り続ける音はかえって異質に感じられ、恐怖を喚起する要因となることを理解した。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：A

実施日：2025年5月10日(土)

実施都市：東京都立川市、武蔵野市、神奈川県横浜市

実施場所：ららぽーと立川立飛周辺、吉祥寺駅周辺、Kアリーナ周辺

実施内容：街頭インタビュー撮影

成果：街頭インタビュー「親子間の位置情報の共有」の貴重なインタビューを撮ることができた。

対象演習：A

実施日：2025年5月17日(土)

講演者：阪口 創 氏 (株式会社 ABEJA)

演 題：AI でドラマの脚本をどうやって作るのか

実施施設：中央大学 多摩キャンパス GG604 教室

実施内容：ドラマ『渡る世間は鬼ばかり 番外編』の制作秘話

成果：人と AI の表現の違いなどについて理解を深めた。

対象演習：A

実施日：2025年5月24日(土)

講演者：新井 一樹 氏 (株式会社シナリオセンター)

演 題：物語の作り方

実施施設：中央大学 多摩キャンパス GG604 教室

実施内容：ストーリーの作り方の特別講義

成果：ドラマ、ドキュメンタリー、ゲームに共通するストーリーの作り方の応用を学ぶことができた。

対象演習：A

実施日：2025年5月31日(土)

実施都市：東京都立川市、神奈川県横浜市

実施場所：立川駅周辺、たまプラーザ駅周辺

実施内容：街頭インタビュー撮影

成果：街頭インタビュー「位置情報の共有」の貴重なインタビューを撮ることができた。

対象演習：A

実施日：2025年8月21日(木)

実施場所：中央大学 多摩キャンパス GG604 教室

実施内容：夏ドラマの読み合わせ、リハーサル

成果：イメージを役者と共有することができた。

対象演習：A

実施日：2025年9月19日(金)

実施都市：神奈川県相模原市

実施場所：枳殻館

実施内容：夏ドラマ本撮影1日目

成果：家シーンの撮影の理解が深まった。

対象演習：A

実施日：2025年9月21日(日)

実施都市：東京都福生市、八王子市

実施場所：cafe sun、中央大学 多摩キャンパス9号館前

実施内容：夏ドラマ本撮影2日目

成果：カフェシーンの撮影の理解が深まった。

対象演習：A

実施日：2025年9月27日(土)

実施都市：神奈川県相模原市

実施場所：枳殻館

実施内容：夏ドラマ本撮影3日目

成果：喧嘩シーンの撮影の理解が深まった。

対象演習：A

実施日：2025年12月13日(土)

実施場所：中央大学 市ヶ谷田町キャンパス

実施内容：期末成果報告会

成果：他のジャーナリズムプログラムの学生の作品に触れ、交流することができた。

対象演習：A

実施日：2026年1月9日(金)

実施場所：中央大学 多摩キャンパス GG604 教室

実施内容：冬ドラマ本撮影1日目

成果：教室シーンの撮影の理解が深まった。

対象演習：A

実施日：2026年1月10日(土)

実施都市：東京都渋谷区、多摩市

実施場所：渋谷センター街、多摩センター駅周辺

実施内容：冬ドラマの導入である街頭インタビュー撮影

成果：学生目線の「テスト」についての貴重なインタビューを撮ることができた。

対象演習：A

実施日：2026年1月30日(金)

実施場所：中央大学 多摩キャンパス GG604 教室

実施内容：冬ドラマ本撮影2日目

成果：教室シーンの撮影の理解が深まった。

対象演習：A

実施日：2026年2月1日(日)

実施場所：中央大学 多摩キャンパス GG604 教室

実施内容：冬ドラマ本撮影 3 日目

成 果：教室シーンの撮影の理解が深まった。

FLP演習B・C

<テーマ>

- ①映像リテラシー
- ②ジャーナリズムとドラマとドキュメンタリー
- ③自分のメッセージ（ドラマ制作）
- ④テレビと SNS

<授業の概要>

- ①このゼミでは、1 つの作品（ストーリー）の中でどんな映像表現がどのように使われているかを分析することで、映像表現を身につけます。
英語の学習に「英文法」「英作文」「英文読解」とあるとすれば、「英文読解（精読）」にあたると考えてください。
さらに、映像表現をものにするためには、「多読」も必要です。たくさんの名作（映画、ドラマ、ドキュメンタリー）を観てもらいます。
- ②優れた映像（ドラマ）作品は、ジャーナリスティックな感覚と時代性に富んでいます。
「今の時代」をどうつかむかの感覚を磨きたいと思います。
そのために街頭インタビューやドキュメンタリーの勉強もします。
- ③リテラシーを勉強する中で、自分とは何か、自分のメッセージとは何かがきつと見えてくるはずです。
そうしたら、そのメッセージを映像にしましょう。
ドラマ制作に挑戦します。
- ④SNS の時代ですがテレビは力を持ち続けています。今後のメディアについて考察します。

<活動内容>

今年度の活動は、大きく2つ。

ひとつは、夏ドラマ制作に臨むこと、そしてもうひとつは冬ドラマ制作。

ドラマ制作に関しては、冒頭部分に街頭インタビューを用いることで本編に説得力を持たせるという例年にない試みを行った。

（その1）街頭インタビューについて



「親世代と子世代の SNS の使い方の違い」について、街頭インタビューの制作を通して検証した。結論として、親世代にはネットリテラシーへの理解が十分でない人も見受けられたが、社会的常識に基づいて利用しているという回答が多かった。一方、子世代は学校教育を通じて情報リテラシーを身につけていると考える学生が多かった。しかし、社会的常識が未成熟であることからトラブルが生じているケースも見られ、興味深い結果となった。

（その2）夏ドラマ制作について

SNS をモチーフに、学生自身が脚本を執筆し、ドラマ制作に挑戦した。昨年は「AI 橋田壽賀子プロジェクト」を見学し学ぶ形式であったが、本年は学生自らの手で作品づくりに取

り組んだ。ロケハンや読み合わせ、リハーサルといった制作過程を経験することで、撮影技術だけでなく、ドラマが完成に至るまでの一連の流れを体系的に学ぶことができた。



(その3) 冬ドラマ制作

『六人の嘘つきな大学生』や『十二人の怒れる男』を視聴し、限られた空間において会話を通して物語を展開させるドラマ制作に挑戦した。

C生は「大切なものを盗んだ犯人を探す」というテーマを設定し、登場人物を大学生、盗難品を研究ノート、舞台を教室とすることで、自身の身近な環境に即したリアリティのある会話劇を構築していた。また、撮影にはiPhoneを使用したため、従来よりも手軽に制作を行うことが可能となった。こうしたアウトプットの機会は学生の実践的能力の向上に直結すると考えられ、今後も積極的に行いたい。

(その4) AIについての特別講義

AI 橋田壽賀子プロジェクトを促進しているAI技術会社(ABEJA)から担当者を招き、AIの現状とAI橋田壽賀子プロジェクトの概要を技術的観点から講義をしてもらった。

(その5) ストーリーの作り方の特別講義

ドラマであれ、ドキュメンタリーであれ、メッセージを伝えるためにはストーリーが必要である。

ストーリーを教えるプロ、たくさんのプロの脚本家を輩出しているシナリオセンターから特別講師(新井一樹氏)を招き、ストーリーの作り方の基本を学習した。

(その6) 日本ドラマと韓国ドラマの比較

「連続ドラマ」は、単発のドラマや映画とは異なるストーリーやキャラクター設定によって構成されており、独自のジャンルであることが浮かび上がった。日本のドラマの長所としては、葛藤や心情表現の豊かさが挙げられた。一方で、韓国ドラマにはストーリー展開の巧みさやダイナミックさが備わっていることが明らかになった。

(その7) 音の使い方

音楽ではなく「音」そのものによって恐怖を演出する手法を学んだ。鐘の音やカラスの鳴き声のように、一般的に不吉と結びつけられる音が用いられることは多い。しかし、現実世界の音環境は本来不規則で複雑である。そのため、一定のテンポやリズムで持続的に鳴り続ける音はかえって異質に感じられ、恐怖を喚起する要因となることを理解した。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：B・C

実施日：2025年5月10日(土)

実施都市：東京都渋谷区

実施場所：ハチ公前、竹下通り、代々木公園

実施内容：街頭インタビュー撮影

成 果：「親世代と子世代の SNS の使い方の違い」というテーマに迫ることができた。

対象演習：B・C

実 施 日：2025 年 5 月 17 日(土)

講 演 者：阪口 創 氏（株式会社 ABEJA）

演 題：AI でドラマの脚本をどうやって作るのか

実施施設：中央大学 多摩キャンパス GG604 教室

実施内容：ドラマ『渡る世間は鬼ばかり 番外編』の制作秘話

成 果：人と AI の表現の違いなどについて理解を深めた。

対象演習：B・C

実 施 日：2025 年 5 月 24 日(土)

講 演 者：新井 一樹 氏（株式会社シナリオセンター）

演 題：物語の作り方

実施施設：中央大学 多摩キャンパス GG604 教室

実施内容：ストーリーの作り方の特別講義

成 果：ドラマ、ドキュメンタリー、ゲームに共通するストーリーの作り方の応用を学ぶことができた。

対象演習：B・C

実 施 日：2025 年 5 月 31 日(土)

実施都市：東京都台東区

実施場所：浅草寺雷門

実施内容：街頭インタビュー撮影

成 果：街頭インタビュー「親世代と子世代の SNS の使い方の違い」の貴重なインタビューを撮ることができた。

対象演習：B・C

実 施 日：2025 年 6 月 1 日(日)

実施都市：神奈川県横浜市

実施場所：桜木町駅周辺、みなとみらい

実施内容：街頭インタビュー撮影

成 果：街頭インタビュー「親世代と子世代の SNS の使い方の違い」の貴重なインタビューを撮ることができた。

対象演習：B・C

実 施 日：2025 年 8 月 6 日(水)

実施場所：中央大学 多摩キャンパス 3351 教室

実施内容：夏ドラマ『在処』オーディション

成 果：演者を決めることができた。

対象演習：B・C

実 施 日：2025 年 8 月 10 日(日)

実施都市：東京都立川市

実施場所：立川撮影スタジオ

実施内容：ロケハン

成 果：夏ドラマ『在処』の撮影場所を決めることができた。

対象演習：B・C
実 施 日：2025 年 8 月 11 日(月)
実施都市：東京都千代田区
実施場所：730_SpemoWork 神田・大手町
実施内容：夏ドラマ『在処』読み合わせ
成 果：イメージを役者と共有することができた。

対象演習：B・C
実 施 日：2025 年 8 月 16 日(土)
実施都市：東京都立川市
実施場所：立川撮影スタジオ
実施内容：夏ドラマ『在処』荷物搬入およびリハーサル
成 果：本撮影をスムーズに進めるための段取りを組むことができた。

対象演習：B・C
実 施 日：2025 年 8 月 17 日(日)
実施都市：東京都立川市
実施場所：立川撮影スタジオ
実施内容：夏ドラマ『在処』リハーサル
成 果：本撮影をスムーズに進めるためのリハーサルを行うことができた。

対象演習：B・C
実 施 日：2025 年 8 月 29 日(金)
実施都市：東京都立川市
実施場所：立川撮影スタジオ
実施内容：夏ドラマ『在処』本撮影 1 日目
成 果：喧嘩シーンの撮影の理解が深まった。

対象演習：B・C
実 施 日：2025 年 8 月 30 日(土)
実施都市：東京都立川市
実施場所：立川撮影スタジオ
実施内容：夏ドラマ『在処』本撮影 2 日目
成 果：家シーンの撮影の理解が深まった。

対象演習：B・C
実 施 日：2025 年 9 月 1 日(月)
実施都市：東京都世田谷区
実施場所：世田谷区立笠森公園
実施内容：夏ドラマ『在処』公園ロケハン
成 果：公園シーンの撮影場所が決まった。

対象演習：B・C
実 施 日：2025 年 9 月 10 日(水)
実施都市：東京都世田谷区
実施場所：世田谷区立笠森公園
実施内容：夏ドラマ『在処』公園本撮影
成 果：公園シーンの撮影の理解が深まった。

対象演習：B・C

実施日：2025年9月11日(木)

実施場所：中央大学 多摩キャンパス全学連携教育機構教員室

実施内容：夏ドラマ『在処』キャリアセンター本撮影

成果：キャリアセンターシーンの撮影の理解が深まった。

対象演習：B・C

実施日：2025年9月17日(水)

実施場所：中央大学 多摩キャンパス

実施内容：夏ドラマ『在処』キャリアセンターロケハン

成果：キャリアセンターシーン再撮影の場所候補が見つかった。

対象演習：B・C

実施日：2025年9月25日(木)

実施場所：中央大学 多摩キャンパスアカデミック・サポートセンター

実施内容：夏ドラマ『在処』キャリアセンターロケハン

成果：キャリアセンターシーン再撮影の場所候補が見つかった。

対象演習：B・C

実施日：2025年10月8日(水)

実施場所：中央大学 多摩キャンパスアカデミック・サポートセンター

実施内容：夏ドラマ『在処』キャリアセンターシーン再撮影

成果：キャリアセンターシーンの撮影の理解が深まった。

対象演習：B・C

実施日：2025年11月10日(月)

実施都市：神奈川県横浜市

実施場所：桜木町駅周辺

実施内容：SNSの使い方についての追加取材

成果：「親世代と子世代のSNSの使い方の違い」の構成幅が広がった。

対象演習：B・C

実施日：2025年11月11日(火)

実施都市：東京都新宿区

実施場所：新大久保駅周辺

実施内容：SNSの使い方についての追加取材

成果：「親世代と子世代のSNSの使い方の違い」の構成幅が広がった。

対象演習：B・C

実施日：2025年12月13日(土)

実施場所：中央大学 市ヶ谷田町キャンパス

実施内容：期末成果報告会

成果：他のジャーナリズムプログラムの学生の作品に触れ、交流することができた。

対象演習：C

実施日：2025年12月20日(土)

実施場所：中央大学 多摩キャンパス GG604 教室

実施内容：冬ドラマ『本心』本撮影

成果：教室シーンの撮影の理解が深まった。

対象演習：C

実施日：2026年1月10日(土)

実施都市：東京都渋谷区

実施場所：ハチ公前、宮下公園

実施内容：冬ドラマ『本心』の導入である街頭インタビュー撮影

成果：無くしたものについての貴重なインタビューを撮ることができた。